

／写真でみる／

公立図書館・図書室の 乳幼児・保護者のための スペース事例集

子どもたちの豊かな絵本・本環境をめざして



東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター

本リーフレットの無断転載・複製はご遠慮ください。



ポプラ社

株式会社ポプラ社

はじめに

子どもの豊かな絵本・本環境のために

発達保育実践政策学センターでは、2019年4月より株式会社ポプラ社との共同研究「子どもと絵本・本に関する研究」を実施しています。その一環として、2020年秋に全国の公立図書館・図書室（分館や資料館を含む）を対象として「子どもの読書環境と公立図書館の役割に関する調査」を実施いたしました。1304の図書館・図書室にご回答をいただきました。

本リーフレットでは、調査結果から、子どもの読書環境構成デザインの観点に基づき、公立図書館・図書室の乳幼児・保護者のためのスペース事例をご紹介します。子どもたちの豊かな絵本・本環境を考える際の手がかりとなれば幸いです。

子どもと絵本・本に関する共同研究の概要

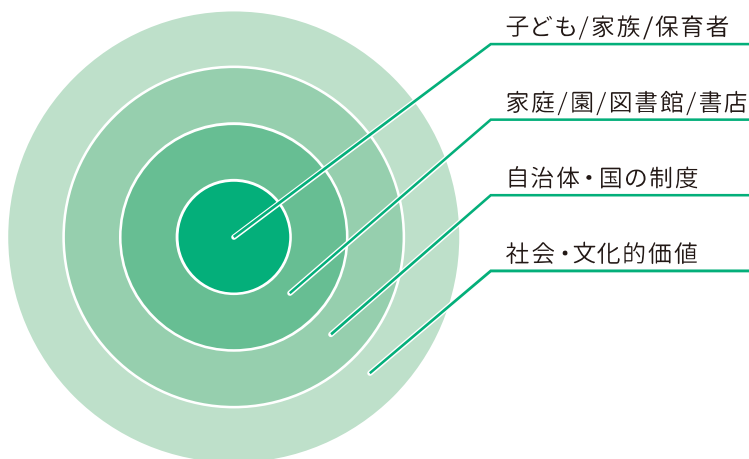
【研究の背景と目的】

絵本や本は、子どもの育ちを支えるものとしてその重要性が注目されてきました。子どもの発達への効果を実証的に示す知見も得られてきています。一方で、近年、デジタルメディアが急速に普及し、子どもを取り巻くメディア環境が大きく変化してきています。

本研究では、こうした時代状況を踏まえつつ、子どもを取り巻く絵本・本環境や取り組みを調査するとともに、絵本・本に対する価値観の変容について明らかにします。その上で、絵本・本の普遍的な価値とともに新しい時代に対応する新たな価値を探らし、子どもの豊かな絵本・本環境の創造・発展に資する知見を得て発信していきたいと考えています。

【研究の視座】

本研究では、生態学的システム(エコシステム)理論*を参照し、子どもを取り巻く絵本・本環境を多層的・多面的に研究しています。多様な分野の知見やアプローチを融合した学際研究を推進しています。全体像は下図の通りです。本リーフレットは、「子どもの読書環境と公立図書館の役割に関する調査」(2020)の結果に基づき、作成しました。



実験研究

オンライン実験による紙絵本とデジタル絵本の比較研究

調査研究

コロナ禍における家庭の絵本・本に関わる実態調査
全国保育・幼児教育施設の絵本・本環境実態調査
全国都道府県・市町村子どもの読書活動の推進計画の調査
全国図書館調査・・・本リーフレット

事例研究

海外の先進事例の収集
「読む権利」に関する歴史的検討

*生態学的システム(エコシステム)理論

発達心理学者U. ブロンフェンブレナーによる。人と環境が相互作用し合うシステムのなかで、人の発達が複雑に規定されるものとして捉える。また、環境として、直接的に影響するものから間接的に影響するものまで様々な異なるレベルを想定している。

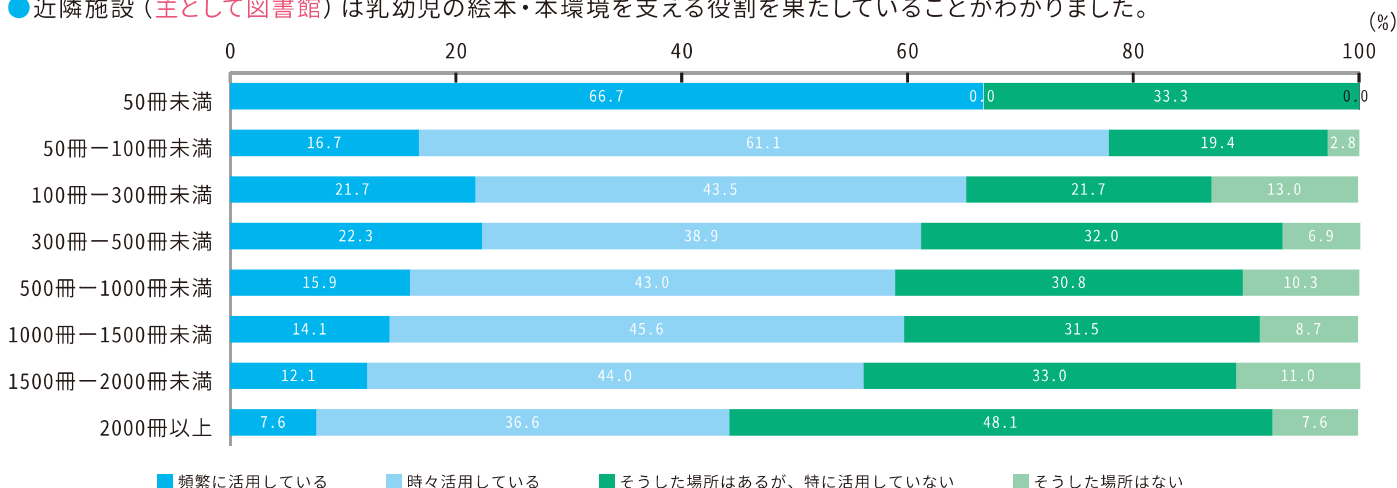


調査の背景

本調査に先行して、我が国の子どもたちが、より早期から長期間、保育・幼児教育施設で過ごすようになってきていることに鑑み、家庭外の育ちと学びの場としての保育・幼児教育施設における絵本・本環境の実態を調査しました。調査の結果、蔵書数やそのための年間予算が少ない施設では、近隣地域にある絵本・本を借りることのできる施設をより頻繁に活用していること、そして、そうした施設は主として地域の公共図書館であることがわかりました。

蔵書数が少ない施設ほど、近隣施設の絵本・本を活用する頻度が高い

- 蔵書数と近隣施設の活用頻度との関連を検討
- 近隣施設（主として図書館）は乳幼児の絵本・本環境を支える役割を果たしていることがわかりました。



全国保育・幼児教育施設の絵本・本環境実態調査(2019)

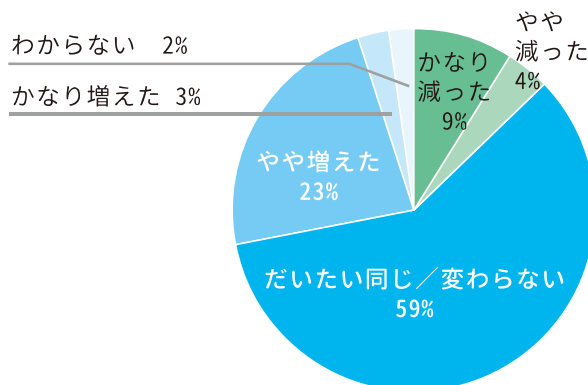
33,566園に調査票を送付し、計1,042園から回答を得ました。

また、2020年は新型コロナウイルス感染症の流行の予防に向けて、緊急事態宣言下において保育・幼児教育施設の多くが休園になったり、登園の自粛が求められたりしました。先行研究では、子どもの家庭内での絵本・本環境（蔵書数や読み聞かせ頻度など）には格差があることが明らかにされています。

外出自粛が求められる期間において、子どもたちの育ちの場や学びの場が大きく制限される中で、乳幼児の家庭内でのマルチメディア環境の実態を明らかにするための調査も、同じく発達保育実践政策学センター（Cedep）とポプラ社の共同研究として実施しました。その結果、新しく手にする絵本・本の冊数が普段より増加したり、読み聞かせ頻度が多くなったと回答した家庭が多かった一方で、冊数が減ったと回答した家庭もありました。その理由を回答してもらったところ、後者の家庭の多くが「図書館が利用できなかった」を挙げていました。図書館が、子どもたちと絵本・本の出会いのセーフティネットになっていることがわかります。

新型コロナウイルス感染症の流行以前と比べて、ここ2週間のあなたの「最年少のお子さん」が新しく手にした絵本・本の数に変化はありましたか？

選択肢	回答数	回答割合
かなり減った	232	8.7%
やや減った	111	4.1%
だいたい同じ／変わらない	1569	58.6%
やや増えた	615	23.0%
かなり増えた	93	3.5%
わからない	59	2.2%
総計	2679	100%



新型コロナウイルス感染症流行に伴う乳幼児の成育環境の変化に関する緊急調査(2020)

緊急事態宣言発令期間中に、乳幼児の保護者を対象としたウェブアンケートを実施しました。乳幼児（0～6歳）をもつ保護者の回答2,679件を分析対象としました。

調査およびリーフレット作成の目的

2019年度に実施した保育・幼児教育施設を対象とした調査、ならびに2020年春の緊急事態宣言下で実施した乳幼児をもつ家庭を対象とした調査を通じて明らかにされたことは、公共図書館は子どもが家庭内外で絵本・本に触れ合う機会（絵本・本へのアクセス）を保障する重要な役割を果たしているということです。そこで今回は子どもの絵本・本へのアクセスを保障する公共図書館（特に公立図書館）の役割を明らかにするための質問紙調査を実施することにしました。

新型コロナウイルス感染症流行下だけでなく、普段から公立図書館は子どもやその保護者に多様な絵本・本との出会いを提供しており、その在り方や方向性については文部科学省が主導する子どもの読書活動の推進に関する取り組みにおいて定められています。その一方で、館内の環境構成や子どもの読書活動の推進に向けてどのような取り組みを行っているのかということには、各自治体・図書館で様々なバリエーションがあると考えられます。そこで本調査では、新型コロナウイルス感染症流行下における図書館の利用可能性に加えて、平時における多様な家庭・多様な子どもの絵本・本へのアクセスや、子どもの読書活動の推進に向けた様々な取り組みの実態（例えば子どもの図書館での過ごし方や絵本・絵本を選ぶ場の環境構成等）を明らかにすることを目的としました。また、特に子どもの図書館へのアクセスという点では、子どもの図書館で過ごし絵本・本を選ぶ場の環境構成が重要になってくると考えられます。

調査の中では、各図書館に子どもの絵本・本スペースの写真を送付していただくようお願いしました。お送りいただいた写真は、環境構成の工夫についての貴重な事例として整理・分類し、他の図書館や学校や保育・幼児教育施設の参考資料にもらえるようにしました。（これが本リーフレット作成の目的です）

調査の概要・手続き

調査の名称：子どもの読書環境と公立図書館の役割に関する調査

質問紙調査の目的

1. 学校や保育・幼児教育施設や諸団体とのかかわり
2. 子どもや保護者のアクセシビリティや昨年度の読書活動の推進に向けた取り組み
3. コロナ禍における図書館の利用状況を把握すること

写真データ収集の目的

- 子どもの絵本・本スペースのレイアウトや環境構成の工夫や取り組み事例の収集と観点の整理・分類

調査対象

- 全国の公立図書館・図書室（分館含む）
- 自治体の読書活動の推進に向けた取り組みとの関連を検討するため、公立施設のみを対象としました。

調査方法

- 質問紙調査：対象となる図書館に調査用紙を配布し、回答用紙またはインターネット上に回答を記入・入力していただきました。
- 写真データは調査担当者メールアドレス宛に送付していただきました。

回収率

- 40%（1304 / 3299館・室）
- 子どもの絵本・本スペース（子どものための区画・閲覧スペース）の写真を送付していただいた図書館 204館

実施期間

- 2020年10月下旬～11月17日（1月初旬までに到着した回答は集計対象に含めました）
- 写真データの提出期限は11月30日までとしましたが、2021年1月初旬までに到着した回答は集計対象に含めました。

子どもたちひとりひとりの学びとウェルビーイングと
社会のウェルビーイングのために、何が変革されるべきか？
という視点からOECD Education 2030はこれからの学校のカリキュラムの
在り方について12のデザイン原理を示しています。
その原理に着想を得て、子どもの読書環境のデザイン原理を考えました。
書誌情報：OECD 2030: Curriculum (re)design



4つの時間の流れから12の大事にしたいことを考えます。乳幼児期には時間空間の環境を通しての経験が大切です。

子どもの読書環境構成のデザイン原理（秋田、2020*）

*秋田喜代美（2020）「デジタル時代における絵本・本の価値を探る ―子どもたちの豊かな読書環境の実現を目指して」
CEDEP2020年12月4日（金）オンラインシンポジウム「デジタル時代における絵本・本の価値を探る ―子どもたちの豊かな読書環境の実現を目指して-」指定討論資料より

I 1冊の絵本・本の中で（Design principles for processes）

1. 共同注視（共同注意）：一緒に1冊の絵本・本の中で眼差しを向け、子どもの表情をとらえ目線をあわせよう。
2. 聴きあう：子どもの発するつぶやきや声を丁寧に聴くことで安心・安定した時間をもとう。
3. 夢中：子どもが夢中になっていることに心を向け、一緒に楽しもう。

II 繰り返しの経験の中で（Design principles across time）

1. 忘れられない経験：好きな絵本・本は繰り返し読むことで忘れられない1冊になります。
2. 良質な作品との出会い：読み継がれてきた絵本・本に子どもが出会える機会を準備しよう。
3. 主体的選択：どんなに小さな子どもでも自分で選ぶからこそそこに見たい聞きたいという気持ちが生まれます。
子どもの意思を尊重しましょう。

III 園・図書館の空間を越えて（Design principles beyond centers and libraries）

1. 読む、表す、関わるなど真正な絵本・本をめぐる活動への参加：本を読むだけではなくそこから自分でも絵本・本を作ってみたり、劇遊びをしたり、仲間同士でお話の世界を一緒に遊ぶなども大事な経験です。
2. 柔軟な流通・交流：絵本・本は園や図書館だけではなく、絵本・本の団体貸し出しやリサイクル、地域医療や保健所、子育て支援センターなど様々な場で、ご家庭や地域でも子どもが絵本・本を介した輪ができるようにしていきましょう。
3. 人がつながりあう：ボランティアで絵本・本を読み合ったり、絵本・本を介して大人も子どももつながりあいましょう。

IV 皆で活動へ参画（Design principles for engagement）

1. 笑顔の輪が広がり力が生まれる：子どもの笑顔、絵本・本に関わる大人の笑顔が絵本・本の楽しさの輪を作り出します。
参加にとどまらず、自分事としての参画が大切です。
2. 共同主体性（コ・エージェンシー）：お互いの楽しさ、ワクワク感がそれぞれの気持ちをエンパワーします。
皆が自分事として楽しめる場作りが大切です。
3. 居心地（ウェルビーイング）：どんな人も排除しない、認め合い受け入れ合う場、心身ともにくつろげる環境だから安心して夢中になれます。



子どもの読書環境構成のための3つのポイントとそのための様々なヒント

1. アクセシビリティ（Accessibility； 利用可能性）
2. ダイバーシティ（Diversity； 多様性） & インクルージョン（Inclusion； 包摂性）
3. エージェンシー（Agency； 主体性） & コ・エージェンシー（Co-Agency； 共同主体性）

Design principles for engagement

皆で活動へ参画

1. 笑顔の輪が広がり力が生まれる 2. 共同主体性 (コ・エージェンシー) 3. 居心地 (ウェルビーイング)

図書館は、1人で、親子・家族・仲間と一緒に、だれでもだれとでも来館し利用できる場所です。さまざまな図書館の乳幼児・保護者スペースの写真から、利用者の視点にたった配慮や工夫をみてみましょう。

図書館の「サイン」：

伝えたい内容が伝わり主体的な参加をみちびくサイン

図書館には、図書館特有の「蔵書関連サイン (配架案内、書架列番号、分類・著者名、デジタル情報案内など)」があります。その他に、どのようなサインがあるのでしょうか。

乳幼児・保護者
スペースの
アクセシビリティ
(理解しやすい・
入りやすい・
使いやすい・
移動しやすい...)



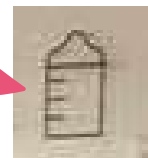
熊本県菊池市中央図書館

ピクトグラム (絵文字)

文字を使わず情報や注意を示すために表示される視覚的記号
国籍や言語等を問わず情報を伝えることができる



「国際シンボルマーク」
障害者が利用できる設備や建物、場所であることを示す世界共通のピクトグラム



「授乳室マーク」

エージェンシーを
高め
コ・エージェンシーを
ひきだす工夫
(乳幼児の主体的な
行動と保護者の
応答的な関わり...)



北九州市立戸畑図書館



「はなれてえらぼう はなれてよもう」を
伝えるサイン (文字・絵)

感染予防対策：フィジカルスペースの確保を
伝える



「くつをぬいで揃えて並べスペースに
入る」を伝えるサイン (絵)

理解しやすい、スペースへ入りやすい

ダイバーシティ
&
インクルージョン
(多様な人の視点に立つ
配慮や工夫...)



東京都練馬区立大泉図書館

「普段はカーペット敷なのですが、消毒の為に拭くことが出来るようにビニールシートを敷いています。」



「ほんは、このしかくのなかでよんでね!」を
伝えるサイン (文字・絵)

感染予防対策：フィジカルスペースの確保を
伝える

乳幼児・保護者、はじめて利用する人などすべての利用者が、主体的に行動し参加しあえる視認性のよいサインを用いた配慮や工夫がみられます。世界共通の表記や、図書館オリジナルサイン、常設サインや期間限定サインなどもあります。利用者の多様性への配慮 (色の見え方など) をふまえ、大きさや色、形等を工夫することが理解しやすさ、入りやすさ、使いやすさ、移動しやすさ等につながります。

だれもが参加できる 居心地のよい「場」としての図書館

だれもが参加できる居心地のよい場となるための配慮や工夫をみてみましょう。

ダイバーシティ
&
インクルージョン
多様な人の視点に立つ
配慮や工夫…
(乳幼児・保護者、妊婦、
ベビーカーをおす人、
障害児・者、
外国籍の人…)



大分市民図書館「おはなしのへや」
「段差をなくしユニバーサルデザインにも配慮」



山梨県立図書館
「児童資料コーナーと一般エリアの境に波形の机を設置、端は車椅子席となっている。」



北海道新ひだか町図書館「LLブックコーナー」



千葉市中央図書館
「妊娠から出産、子育てに関する本が、絵本とともに配架されている。奥の掲示板には、子育て支援コーナーをつくり、妊娠中から子育て中のみなさんに情報提供している。」

乳幼児・保護者
スペースの
アクセシビリティ
(理解しやすい・
入りやすい・
使いやすい・
移動しやすい…)



東京都武蔵野市立吉祥寺図書館
「子連れの保護者も本を選びやすいよう、児童書架の奥に生活関連図書を配置しています。OPACは児童の目線に合わせた高さに設置しています。」



岐阜市立中央図書館
「親子のグループ」エントランス付近の南側に位置する。円形のスペースになっており、内側と周辺に木のベンチを配置。館内でのベビーカー利用。

エージェンシーを
高め
コ・エージェンシーを
ひきだす工夫
(主体的な行動と
応答的な関わり…)



北海道斜里町立図書館「くつろぎスペース」
「正面入り口に近い場所にあり、床が階段3段分ほど高くなっているため、ベビーカーで利用できるようスロープを設置しています。またトンネルをくぐって行くこともできます。」



山梨県立図書館
「児童資料コーナーのトイレは、一般用と入口が別の児童トイレがあり、授乳室、給湯室が隣接している。」

フラット化した床、車いすで利用できる机、子どもに応じた配置(OPAC)、保護者や妊婦への配慮、ベビーカーの館内利用やスロープ、子ども用トイレ等、多様な人の視点にたった配慮や工夫がみられます。

乳幼児と保護者が過ごす居心地のよい「場」としての図書館

ダイバーシティ
&
インクルージョン
(乳幼児と保護者の
視点に立つ
配慮や工夫…)

図書館内で乳幼児と保護者が過ごす場では、乳幼児の育ちをふまえた配慮や工夫がどのようになされているでしょうか

おもちゃ(木・布のおもちゃ、布絵本、ぬいぐるみ)の貸し出しを行っている



岐阜県高山市図書館「煥章館」

「館内1階たたみのへや。紙芝居、2歳程度までを対象とした絵本、乳幼児向けの雑誌のほか、つきみやベビーバウンサーを設置。続きの部屋に授乳室とベビーベッドを設置。」

子どものための楽しい空間、家の形のピンクの壁に絵を描くことができる



島根県西ノ島町コミュニティ図書館

「館内南側の日当たりのよい場所で、飲食可能なカフェスペースの隣に設けている。授乳室と子ども用トイレも設置。作り付けの低い本だなと低い机に、椅子を4つ、少しだがままごとセットなど木のおもちゃも用意している。主に乳幼児向けスペースとして利用。」

バウンサー、モビール、おもちゃ机・イス(ブロック:もちはこびできる)



北海道新ひだか町図書館

エージェンシーを
高め
コ・エージェンシーを
ひきだす工夫
(乳幼児の主体的な
行動と保護者の
応答的な関わり…)



広島県安芸太田町立図書館

「絵本の部屋になっているので、利用者の年齢制限はないが、入り口側から奥が乳幼児スペースとして活用されている。ベビーベッド、授乳用カーテン。」



北海道斜里町立図書館

「おむつ替えベッドを用意した授乳室も併設しています。」



千葉県浦安市立中央図書館

「児童室に設置され、施設内には授乳スペースやおむつ交換台、手洗い場がある。」

乳幼児・保護者
スペースの
アクセシビリティ
(理解しやすい・
入りやすい・
使いやすい…)



北海道標茶町図書館

掲示「おむつ交換台・おひるねマットの貸出」



モビール、光(人工照明)
おむつ替え時にベッドに寝て
乳幼児がいるスペースの工夫と、
まぶしくない光の位置

青森県立図書館

「乳幼児室(おむつ替えのコーナー)」

乳幼児の育ちをふまえた机やイス、バウンサー、モビール、おもちゃ、授乳室、オムツ交換台、ベビーベッド、お昼寝マット、手洗い場など保護者と一緒に過ごしやすい工夫やくつろげる環境への配慮がなされていることがわかります。

また、おもちゃなども準備されている図書館もみられます。おもちゃで遊び楽しむだけでなく、絵本(絵の形や色)と積木(形や色)や、絵本(車の絵)とおもちゃ(車)等を「おなじ(同じ)!」と絵本の絵と物を対応づけたり、遊びの中で絵本(絵)とは何かを学び大人との絵本をめぐるやりとりを楽しむことにつながるでしょう。

とくに空気交換、換気、温度調節、安全性、衛生管理等への配慮が必要な場であるといえるでしょう。

Design principles for processes

1冊の絵本・本の中で

1. 共同注視（共同注意） 2. 聴きあう 3. 夢中

「貸出型から滞在型、課題解決型へ」と時代や社会のニーズが変化し、「場」としての図書館のあり方が変わってきています¹⁾。「多様な絵本・本と出会い1冊を選び・選び合う場」、「絵本・本を読む・読みあう・聴きあう場」「絵本・本を読み終える場」の一連の流れをめぐる場や、絵本・本をこえた「場の広がり」について順にみてみましょう。 1) 中井孝幸・川島宏・柳瀬寛夫(2020). 図書館施設論, 日本図書館協会.

多様な絵本・本と出会い1冊を選ぶ・選びあう場

多様な絵本・本に囲まれた環境の中で、絵本・本を選び・選び合うことに夢中になれる場の工夫をみてみましょう。

読みたい絵本・本の
アクセシビリティ

(見やすい、
探しやすい、
選びやすい、
手にとりやすい...)



徳島県牟岐町立図書館

「絵本や赤ちゃん絵本、しかけ絵本が、子どもの目線で見られるように配置。」



大阪府熊取町立熊取図書館

「赤ちゃん向けの絵本や親子向けの絵本、わらべうたの本などを設置しています。表紙見せの展示架の棚の高さは、乳幼児がつかまり立ちした時に届く高さになっています。畳や大きめのソファを設置しているので、乳児連れの保護者も安心して利用ができます。」

四季やイベントに合わせて変化するディスプレイ
自ら絵本を選べる書架、わくわくする空間



東京都荒川区ゆいの森あらかわ
(中央図書館えほん館)

エージェンシー
を高め
コ・エージェンシー
をひきだす工夫

(1冊の絵本・本へ
注意を向けあい
選びあう...)



ダイバーシティ
&
インクルージョン

(多様な人の視点に
立つ配慮や工夫...)



秋田県鹿角市立花輪図書館 テーマ展示

「椅子をランダムに配置をして、自由に本を手にとれる空間を意識しています。」

相模原市立相模大野図書館

「4階子どもの本のフロアの奥にあります。靴を脱いで利用する場所です。背の低い絵本棚や、移動式の書架を設置し、乳幼児が絵本を手に取りやすい環境になっています。また、この場所で紙芝居等のおはなし会も開催しています。」

歩いていてふと出会う絵本：図書館で選ぶ醍醐味、
歩くとすれ違える（ペピーカー、書架の幅、向き、閲覧席の近さ）



山梨県立図書館

「児童書コーナーの中間に位置する通路は少し幅が広く、高さの低いベンチを設置している。」

ダイバーシティ
&
インクルージョン
(多様な人の視点に
立つ配慮や工夫…)

床のカーペットの色の使い分け：効果的な案内



奈良市立北部図書館

「円卓閲覧机や子ども用OPAC検索端末、トンネル型書架など、子どもたちに楽しい空間
配置となっている。」

エージェンシー
を高め
コ・エージェンシー
をひきだす工夫

(絵本・本の展示：表紙見せ・
面展示(フェイスアウト)
棚・書架の高さ：身長、座高、
運動発達、ハイハイ、
つかまり立ち、つかむ、
つまむ、もつ…の工夫)

「ミルクのお湯が
必要な方
ミルク用のお湯は図
書館事務所内にご用
意しております。お気
軽にお申し付け下さ
い。」



熊本県菊池市中央図書館

赤ちゃんと保護者のために、赤ちゃん絵本、子育てに関連する本を中心に置いています。冬は床暖房が入ります。

乳幼児も保護者も主体的に絵本・本を選択する



読みたい絵本・本の
アクセシビリティ

(見やすい、
探しやすい、
選びやすい、
手にとりやすい…)

「壁面」
(絵本との関連)

「紙芝居」と
「紙芝居の舞台」

「大型絵本」との出会い
(縦116cm×横21cmなど)

ママパパコーナー
(大人が立ち見ることのでき
る高さや位置に掲示・展示)

「ぬいぐるみ」
(絵本との関連)

「ドアのガラス窓」
(大人と子どもの見える高さを
ふまえたガラスの位置
隣のスペースとのつながり)



「布絵本」との出会い
(机の下に袋にはいった布絵本、手にとり机の上ですぐに閲覧
できる)



高さのちがう「イス」
(きょうだいや親子と一緒に寄り添い読みあえるイス)



「絵本・しかけ絵本」
乳幼児が手にとりやすい位置

「ホットカーペット」
(くつろいで寄り添い
選び読みあえる場)

北海道池田町立図書館 キッズルーム

「図書館正面入口から入って受付カウンターの右手にあります。未就学児と保護者の利用がほとんどです。絵本(大型、仕掛け、キャラクター、あかちゃん、布)、紙芝居、育児書など約3,600冊
を配架しています。」

多様な絵本・本の中から1冊を選びあうことに夢中になり、読みあう絵本・本をゆったりと選択できる乳幼児と保護者のための場としての工夫や配慮がみられます。

多様な絵本・本(ボードブック、しかけ絵本、点字絵本、ふれる絵本、外国語絵本…)に囲まれた環境の中で、さまざまな素材(厚紙、薄紙、布など)や大きさの絵本・本に出会い、手をつかみ持つ、ページをつまみめくる等、自分の身体で絵本・本と関わることをじっくりと繰り返し楽しむ乳幼児の姿を見守り関わることも子どもの育ちにとって重要なことでしょう。

また、絵本・本のみならず、絵本・本と関連のあるぬいぐるみや壁面等もみられます。絵本・本の選択や読みあいでやりとりを広げるきっかけとなるでしょう。

絵本・本を読む・読みあう・聴きあう場

多様な場（床、いす・机など）で、ひとりで、親子やきょうだいが一対一で、家族や仲間がグループで、さまざまな姿勢（膝上、横並び、向き合うなど）で、ゆったりとくつろいで絵本・本を読む・読みあう・聴きあう場の工夫や配慮をみてみましょう。

ダイバーシティ
&
インクルージョン
(多様な人の視点に
立つ配慮や工夫…)



山梨県立図書館

「絵本コーナーの奥にある「よむよむスペース」は、読み聞かせのためのコーナー。靴を脱いで上がる場所で、書架には0～2歳向けのおすすめの絵本を置いている。0～2歳と、3歳以上小学生までを対象にしたおはなし会を定期的に行っている。おはなし会以外の時間は自由に利用が可能。」



浜松市立春野図書館

「畳（3畳）のスペースがあり、子どもたちや保護者がくつろいで本を読むことができます。授乳やおむつ替えに使う方もあります。絵本の棚は、高くても3段までで、子どもたちの手が届く高さです。机と椅子も、幼児用の小さいものが設置してあります。」



大阪市立中央図書館

「滑りにくいコルク床になっており、靴を脱いで、ゆっくり座って本を選ぶようになっている。」



岡山県新見市立中央図書館



愛知県豊橋市中央図書館

「テラス」「児童室からの出入り可能な閲覧スペース」



浜松市立舞阪図書館「あかちゃんコーナー」

棚の低い本棚が設置されており、月に1回のブックスタートや、たまに開かれるストーリーテリングのお話し会等にも使われている。床暖房使用可。お話し会実施時にはカーテンにて区切っている

読みたい絵本・本の
アクセシビリティ
(読みやすい
読みやすい、
聴きやすい…)

エージェンシー
を高め
コ・エージェンシー
をひきだす工夫
(1冊の絵本・本へ注意を
向けあい読みあう…)



鳥根県雲南市立大東図書館

「どんぐり型のテーブルとイスで親しみやすく」



福鳥県郡山市中央図書館

「乳幼児専用絵本よみきかせ台」



鳥根県浜田市立中央図書館

「児童棟の端にあり、親子でゆっくり本を読める場所。畳が敷かれており、靴を脱いで上がるエリアになっている」

バリエーション豊かな場で、1冊の絵本・本へ注意を向けあい読みあう人とやりとりしたり1人で読む等、多様な過ごし方ができる工夫がなされていることがわかります。乳幼児は、寝転がる、ハイハイで移動する、座るなど床の上、低い位置で過ごすことが多く、床と壁の下の部分は、子どもの環境として重要な場となります。

快適な自然光を取り入れることも必要です。天候や時間、館内環境による変化や、絵本・本を読む・読みあう・聴きあう際に光があたり反射していないか、絵本・本に光があたりやけて退色しないかなど、光（人工光、自然光）と人、絵本・本との関係への配慮も大切な視点です。

絵本・本を読み終える場：絵本・本をきまったところへ置く

絵本・本は手に取り読むだけでなく、戻すことも絵本・本をめぐる一連の流れで重要です。とくに図書館では、絵本・本をきまったところへ戻すことがルールであり特徴でもあります。絵本・本を戻すことをめぐる工夫や、配慮を考えてみましょう。

エージェンシーを高め
コ・エージェンシーをひきだす工夫
(乳幼児が絵本・本を自らもとに戻す工夫と保護者や図書館の人の関わり…)

棚から出した絵本・本を入れるカゴ



東京都練馬区立大泉図書館

乳幼児が取り出しやすい絵本・本



北海道新ひだか町図書館

ダイバーシティ & インクルージョン
(多様な人の視点に立つ配慮や工夫…)

読み終えた後の絵本・本を入れるカゴの設置や、戻す場所がわからなくなったときに置く棚が準備される等の配慮や工夫がなされているようです。取り出したり入れたりしやすい位置へ絵本・本を配置し(手が届く高さに面展示する)、乳幼児が決まった場所へ戻す工夫もみられます。

絵本・本を戻す定位置に絵本の表紙の写真を貼り、その上に絵本を置くようにすると、自分もっている絵本・本と同じ絵本・本の写真を探し乳幼児自ら楽しみながらもとに戻すことを導くことも考えられます。楽しみながら図書館のルールを学ぶ機会にもなるでしょう。

夢中になれる場の広がり：

ゆったり過ごす場、課題を解決する場・・・

図書館のアクセシビリティ
(戻しやすい、すごしやすい…)

図書館で夢中になれるのは絵本・本を読むことだけではありません。



千葉市中央図書館

靴を脱いで上がれるスペースで、左隣にはおはなし会や紙芝居、わらべうた等を行う部屋がある(ミニプラネタリウムもついている) 幼児利用できるよう、絨毯が敷いてある。



熊本県菊池市中央図書館

子ども室は、子どもの声が一般開架スペースに響かないように、壁で仕切っております。壁はガラス張りで見えるようになっております。子ども室はカーペット敷きで靴を脱いで利用します。低めのテーブルと椅子、クッション、ぬいぐるみ、布絵本などを置いています。(現在は感染予防のためテーブルのみ) 冬は床暖房が入ります。



「こんなギモンありませんか?
〈そらはどうしてあおいの?〉
〈むかしの人ってどうやってつめをきったの?〉
〈チョウはなんでまっすぐとばないの?〉
図書館は本を読むだけの場所じゃない!
あなたがいつも疑問に思うことを解決して
ませんか?お手伝いします!!
気軽に図書館の人に声をかけてね♪
(ふりがな表記あり)

図書館は、絵本・本を読むだけの場ではなく、ミニプラネタリウムを楽しみ、図書館の人にサポートしてもらい疑問を解決する等、さまざまな過ごし方ができる場に広がってきていることが写真からもわかります。

多様な活動に参加できるようになり「ほどよいざわめき」が現代の図書館のキーワードであるといわれる中、乳幼児スペースは書架の高さが低いため「高音域(子どもの声、高い声)」の音が広がりやすいことが指摘されています。¹⁾ 静かな場の確保と、心地よいと感じる音環境の場(人の声、紙・ページをめくる音、イスをひく音、歩く音など)への配慮や工夫がさらに必要となってくるでしょう。

Design principles across time

繰り返しの経験の中で

1. 忘れられない経験 2. 良質な作品との出会い 3. 主体的選択

図書館では、自分が読みたい絵本・本（作品）を何冊も実際に手に取りページをめくりながら選択することができます。しかしそれだけではなく、興味深いテーマのもとに選書・展示された絵本・本との出会いや、繰り返し出会う工夫もなされています。

選書された絵本・本と出会う（期間限定）



北海道新ひだか町図書館
「児童展示コーナー（毎月入れ替え）」



岡山県新見市立中央図書館
8月のお誕生日作家の絵本・本



山梨県立図書館
「児童書コーナーの書架の端には「光る書架」があり、展示スペースとなっている。短時間で棚ごとにテーマを設けて資料を展示。」

アクセシビリティ
(出会いやすい、
すこしやすい...)

繰り返し出会う（おはなし会で読んだ絵本・本、読み聞かせにおすすめの絵本・本）

ダイバーシティ
&
インクルージョン
(多様な人の視点に立つ
配慮や工夫...)



横浜市山内図書館「オープンスペース」

「おはなしかいで
よんだえほんど
かみしばい」
を置く棚



千葉県我孫子市民図書館

「読み聞かせにおすすめする本のコーナー（布佐分館）」「よみかせにおすすめの本を置いています。市民団体が選書会等で利用しています。」
(<https://www.library.city.abiko.chiba.jp/theme/yomikikase.htm>)

「図書館のおはなし会で好評だった本を中心に揃えています（画家の50音順に並んでいます）。
多くの人数に対応できるように、遠目の効く本が中心です。
ここには同じ本が2冊づつおいてあります。館内ラベルの付いていない本が貸出できません。貸出がない時や見つからない場合は、お気軽に職員にお尋ねください。分館に在庫がない場合、市内の図書館よりお取り寄せ致します。」

地域の人・文化・歴史に出会う

地域の人々の作品に出会う



青森県立図書館
沢田としきさんの作品展示

地域の文化や歴史に出会う（親、祖父母、地域の人等と出会い、語り合い・・・）



北海道中標津町図書館「おはなしコーナー」
壁面には、現在廃線となっている標津線の路線図を布で作成したものが飾られています。



愛知県安城市
図書館情報館
「なんきちさんのへや」
安城市にゆかりのある作家
新美南吉さんに
まつわる展示

エージェンシーを高め
コ・エージェンシー
をひきだす工夫

(多様な絵本・本の選択・
繰り返し出会う工夫、
地域の人・文化・歴史に出会い
関わりあう工夫...)

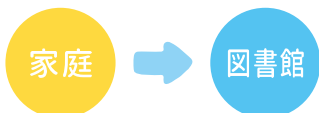
図書館では、多様な絵本・本の中から思いがけない絵本・本（作品）との出会いや、忘れられない1冊の絵本・本（作品）との出会いがあります。そして地域の図書館では、乳幼児・保護者スペースで親子や祖父母、地域の人と関わり語り合いながら、その地域特有の絵本・本・物を通して、地域の人・文化・歴史にふれあうことができる環境の工夫もなされているようです。

Design principles beyond centers and libraries

園・図書館の空間を越えて

1. 読む・表す・開くなど真正な絵本・本をめぐる活動への参加 2. 柔軟な流通・交流 3. 人がつながりあう

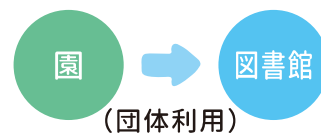
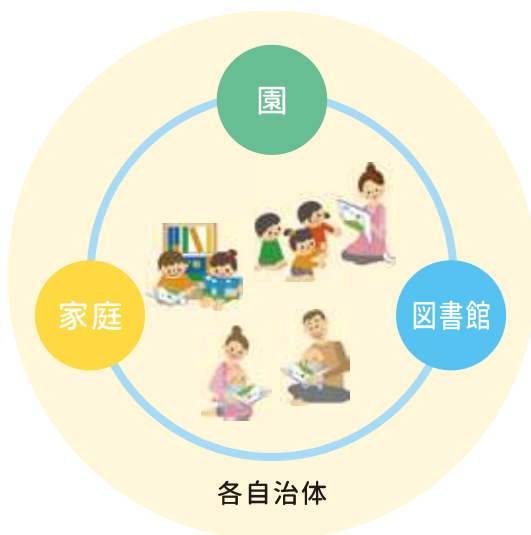
すべての子どもの絵本・本環境を支える場（家庭、園、図書館など）の空間をこえた柔軟な流通や交流、人とのつながりについて、乳幼児・保護者スペースの写真からみてみましょう。



他の家庭の乳幼児、保護者、図書館の人が
つながりあう



滋賀県草津市立図書館



乳幼児、保育者、図書館の人がつながりあう



横浜市山内図書館「オープンスペース」

「くつを脱いであがるスペース。設置の書架は乳幼児対象。親御さんが、読み聞かせをしている姿をみることができる。土、日は父親が読み聞かせをしていることもある。」

児童館 図書館

複合施設（児童館と図書館）



山口県萩市立萩図書館



「あなたの子育て応援します」



「萩市子ども読書活動推進事業」

アクセシビリティ
(すごしやすい...)

エージェンシー
を高め
コ・エージェンシー
をひきだす工夫

(空間を越えた絵本・
本をめぐる活動への参加・
交流・人がつながりあう
工夫...)

家庭、園、図書館などの空間をこえ、絵本・本を通して多様な人がつながっていることがわかります。

また、家庭や園の空間で読み手である保護者や保育者も図書館では子どもとともに聴き手として参加し絵本・本を味わい楽しむなど、絵本・本との関わり方や参加の仕方がこれまでと変わり、新たな絵本・本との出会いや時間になっているようです。

これからの図書館は、子育て支援施設や老人福祉施設、園や学校、病院などの施設と複合化し、図書館の枠をこえたさまざまな機能をなう融合化が進むといわれています。^{2) 3)}

2) 高橋翠・野澤祥子・菅井洋子・佐久間路子・仲本美央・秋田嘉代美 (2021). 保育・幼児教育施設における絵本・本の蔵書数と年間予算-施設間の相違と地域環境との関わりに着目して-. 国際幼児教育研究, 28, 119-136.

3) 谷一文字 (2019). これからの図書館: まちとひとが豊かになるしかけ. 平凡社.

写真掲載図書館・図書室一覧（掲載順、★は表紙掲載図書館 ★は裏表紙掲載図書館）

熊本県菊池市立中央図書館★
 福岡県北九州市立戸畑図書館★
 東京都練馬区立大泉図書館
 大分県大分市民図書館
 山梨県立図書館
 北海道新ひだか町図書館★
 千葉県千葉市中央図書館
 東京都武蔵野市立吉祥寺図書館
 岐阜県岐阜市立中央図書館
 北海道斜里町立図書館★
 岐阜県高山市図書館「煥章館」
 島根県西ノ島町コミュニティ図書館
 広島県安芸太田町立図書館
 千葉県浦安市立中央図書館
 北海道標茶町図書館
 青森県立図書館
 徳島県吉野町立図書館
 大阪府熊取町熊取図書館★
 東京都荒川区 ゆいの森あらかわ図書館（絵本館）



神奈川県相模原市立相模大野図書館
 秋田県鹿角市立埴図書館
 奈良県奈良市立北部図書館★
 北海道池田町立図書館
 静岡県浜松市立春野図書館
 大阪府大阪市立中央図書館
 岡山県新見市立中央図書館
 愛知県豊橋市中央図書館
 静岡県浜松市立舞阪図書館
 福島県郡山市中央図書館
 島根県雲南市立大東図書館
 島根県浜田市立中央図書館
 神奈川県横浜市山内図書館★
 千葉県我孫子市民図書館
 愛知県安城市図書館情報館
 北海道中標津町図書館★
 滋賀県草津市立図書館
 山口県萩市立萩図書館



近年、子どもの成育環境においても情報化・ICT化が急速に進んでいます。こうした状況を鑑みると、従来と同じように子どもにとっての絵本・本の普遍的な意味や価値、そしてそれらとの出会いを保障する人や場所の役割やそのあり方を探究していくことはもちろんのことですが、今後は多様な情報へのアクセス保障や、様々な情報媒体からどのように必要となる情報を検索し、取捨選択していくのかというリテラシー教育のあり方などの検討がよりいっそう重要になっていると考えられます。加えて、最近特に、地域で暮らす人々の多様性への配慮や、それを意識した公共施設の在り方についても、社会的な関心の高まりがみられます。

こうした背景を踏まえると、本調査は、我が国の公立図書館が、多様な子どもたち、および家庭の様々なニーズや願いをどのように汲み取り、施設運営に生かしているのか、またそこで現在直面している課題（特にコロナ禍における子どもの読書環境や公立図書館をめぐる困難や課題）は何かということを詳らかにする非常に重要な情報源になったと考えております。

今後は、この貴重なデータを詳細に分析し、乳幼児をはじめとするすべての子どもと保護者にとっての図書館の意義や価値について学会や学術雑誌、ウェブサイト記事等を通じて積極的に発信してまいりたいと思います。

この度はご多用の折、本調査にご協力を賜り誠にありがとうございました。
 本調査に携わった研究メンバー一同、心より御礼申し上げます。

研究メンバー

監修・実施

- 秋田喜代美（学習院大学 教授・東京大学 名誉教授）
- 高橋翠（発達保育実践政策学センター 特任助教）
- 松田恭子（株式会社ポプラ社）
- 松本麻依子（株式会社ポプラ社）
- 上野萌（株式会社ポプラ社）
- 横田亮介（株式会社ポプラ社）
- 野澤祥子（東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 准教授）
- 菅井洋子（川村学園女子大学 教授）
- 花立健（株式会社ポプラ社）
- 齋木小太郎（株式会社ポプラ社）
- 池田紀子（株式会社ポプラ社）

実施補助・協力

出水雅子／松浦和代／宮澤那緒／向出歩穂／藤井千尋／松枝真理子／
 松枝華子／藤井達也／高橋葉子／内田麻里奈

▼本リーフレットのダウンロードはこちら

http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/projects_ongoing/poplar/casestudies_spaces/



「リーフレットPDF版のURL」はウェブサイト等にご転載いただけます。
 なお、リーフレットPDF版のURLを掲載される際には、
 出典を明記していただいた上で、事前にcedep@p.u-tokyo.ac.jpに
 掲載先情報をご一報ください。どうぞよろしくお願いいたします。